

まちなにぎわいづくり一括助成事業 事業評価シート

作成年月日	平成21年10月15日	調書作成者	復興支援課 宮本
事業概要	採択年度	平成19年度	
	プロジェクト名	松本地区まちづくりセミナー	
	補助額	9,406,000円	
	事業実施団体	松本地区まちづくり協議会	
	事業期間	平成19年11月1日～平成21年7月15日	
事業開始時の事業目的	松本地区での地域コミュニティ活動の高揚をもって、松本地区と他の地域の人的交流を促進し、自立した「まちづくり活動」の普及・啓蒙に資することを目的とする。		
事業実施状況	当初計画事業	当初計画どおり実施した事業	
	せせらぎ歩道など地域内の資源を活かした各種イベントの実施(松本しょうぶ祭、松本地区まちづくりフェア、餅つき大会等)	(左の当初計画事業の番号を記載)	
	まちづくり会館を使用した「まちづくりセミナー」の開催	、	
	新しい参加者へのイベントの意義付けや実施ノウハウを伝える「まちづくりインターン」の実施	当初計画から変更して行った事業とその変更理由	
	絵画教室やダンス教室等文化教室の開催	(左の当初計画事業の番号を記載)	
	イベント開催に要する備品等を整備し、他地域でのイベント開催を支援	、	
		(変更理由) のH21.5.17に開催予定であった松本しょうぶ祭は、新型インフルエンザの発生により、急遽中止となった。 及び については、インターネットを活用して募集しようと考えていたが、協議会HPの立ち上げができなかったため、思ったように情報発信ができず、回数を減らしての実施となった。	
		実施しなかった事業とその理由	
	(左の当初計画事業の番号を記載)		
	-		
	(理由)		
	-		

	当初計画していなかったが実施した事業とその理由・目的等
	-
	(実施理由・目的)
	-

**実施団体による自己評価**

地域イベントの回数増、 イベント参加者数の増加、 地域を越えた交流が深まる等地域のにぎわいづくりに効果があったと考えているが、新たな事業を行っていくことの難しさも痛感し、実施団体自身は事業結果にはあまり満足していない。

**当初計画で設定した評価指標とその成果**

		定量的評価指標	従前数値	事業終了時の数値	今後の達成の見込み・時期等
指標の達成状況	指標1	地域活動への参加者数	60名～80名	100名超	
	指標2	連携できる近隣教育機関の数	1校	4校	
	指標3				
	各指標に対する評価	今までもせせらぎ通りの清掃活動をはじめとして、日頃から地域活動が活発に行われている松本地区において、当事業の実施により、さらに新しい参加者が増えたことは評価できる。			
		定性的評価指標	従前	事業終了時	今後の達成見込み・時期等
指標の達成状況	指標1	地域としてどの規模の事業までであれば、取り組めるかという限界の確認		既に日頃から地域活動が積極的に行われている同地域において新しい継続的な事業を実施することは困難であることがわかった。	
	指標2				
	指標3				
	各指標に対する評価	今回のセミナー事業において新しい事業を実施していくことが、いかに難しいかを痛感したことは地域にとって貴重な経験になるとともに、その経験を地域活動に活かしていってほしい。 今後、継続している地域活動の更なる参加者の拡大や内容の充実を図り、定着している事業を引き続き継続していく努力が必要であると思われる。			

当初計画で設定されていなかったが達成度を評価できる指標とその成果		
	評価指標	成果
指標1	地域活動への新しい若年者層の参加	小学校PTA役員や地区内の若者とのつながりが生まれた。今後新しく生まれた若年者層とのつながりをさらに深めていく。
指標2		
指標3		
事業実施によって事業終了後に残った成果		
成果1	イベント開催を通じて、日頃つきあいのなかったPTA役員や地元の若い店主との交流が生まれ、地域イベントでの参加者が確実に増加した。	
成果2	地域の地域資源の1つである近隣教育機関との連携が生まれ、交流を深めることができるようになった。	
成果3	他の地域のイベントを支援できる体制が構築され、さらに他の地域との連携が図られるようになった。	
成果を今後地域で継続させていくための方策		
<p>当事業で発掘した若年者層の地域活動の参加者とのつながりを深め、高齢化している地域活動の中心的な役割を若返らせる取り組みを行っていく。</p> <p>イベント用品の貸し出しについて、他地域に広く発信していき、地域コミュニティの素晴らしさを伝えていく。</p> <p>今後、ホームステイ等の受け入れなど国際的な人的交流を進めていく。</p>		
今後の課題		
<p>まちづくり活動のための活動資金の調達が課題となっている。</p> <p>また、情報発信のために、IT関連に詳しい人を地域内で発掘していく必要がある。その人材を活かして早急に今回整備した備品をこの協議会がもっていて、イベント時には貸してくれるということを広く他の地域にPRしていく必要がある。また、貸し出すルール(要綱)や貸し出しリスト等を作成して、広く一般に貸し出せる体制づくりも必要である。</p> <p>当事業で実施した「松本しょうぶ祭り」の定着化を図る必要がある。</p>		
その対処方針		
<p>資金の調達については、ふれあいのまちづくり協議会等地域団体を巻き込み、寄付を募るなどにより、資金を確保していく予定。</p> <p>また、地域内の新しい人材をさらに、様々な手法により発掘していき、地域活動に参加してもらうようにしていく。</p>		
事業実施後の地域への波及効果、次なる展開		
<p>地域内の小・中・高校の児童や生徒を巻き込む仕掛けは構築できたので、地域のお祭りを地域の防災訓練の一環として位置づけ、いざ災害が発生した場合には、イベント実施ノウハウを活かして、地域の防災本部を早急に立ち上げることが可能になるよう今後も取り組んでいく。さらに、整備した備品の他地域への貸し出しを通じて、他地域との交流の機会をさらに増やしていく。</p>		

## 地域のまちのにぎわいはどうなったか

松本地区は、あくまでも住宅地であるので、日頃のにぎわいという点においてはかわらないが、地域イベント開催時の参加者数は増加する等イベント時のにぎわいは大きくなったと思われる。

## 事業実施に関する総合評価(委員会所見)

地域イベントにこれまで参加していなかった若年者層の住民が新しく地域活動に参加するようになったり、地域の教育機関との連携が深まるなど事業実施について一定の成果があったことは評価できる。  
しかしながら、他地域のイベント支援を行うための備品は整備できたが、松本地区がイベント備品を持っているということを広く情報発信するために、HPの整備と口コミのためのちらし、備品リストを作成し、PRしていく必要がある。  
また、その備品を貸し出すルールを要綱等にまとめ、他の地域からイベントをしたいので、貸してほしいという話しが入ってきたときに、円滑に貸し出すことができるよう、体制を整えておく必要がある。  
今後も日頃から定着しているイベントを継続して実施されることを期待する。